

10年ぶりに改訂しました

都市計画マスタープラン

都市計画課
☎202167

都市計画マスタープランとは

住みやすいまちをつくるための計画であり、まちの将来像を描き、その実現に向けての基本的な方針を示したものです。

足利市の計画は

本市の都市計画マスタープランは、平成9年と19年に策定しましたが、その後約10年が経過し、社会情勢や都市環境が大き

く変化しています。このようにことに対応するため、今回、本計画を改訂しました。

この計画を見るには

都市計画課(本庁舎5階)、市民資料室(本庁舎別館1階)で閲覧できるほか、市ホームページでもご覧になれます。

また、この計画の概要版を今号あしかがみの配付に合わせて、自治会回覧します。

足利市都市計画
マスタープランの構成

計画のテーマと基本目標

都市の特性や現状を踏まえ、本計画のテーマと基本目標を設定しています。

計画のテーマ
多彩な地域と人が織りなす
輝くまち 足利

全体構想(将来都市構想、分野別構想)

市全域を視点とし、将来目指すべきまちの姿を表しています。

また、都市を構成する各分野におけるまちづくりの方針を示しています。

地域別構想

全体構想を基に、地域の個性などを活かしながら、地域別により具体的なまちづくりの方針を示しています。

都市像の実現化方策

市民の皆さんと行政との協働により、市民力を活かしたまちづくりの取り組み方針とともに、短期的・長期的に取り組むプロジェクトを示しています。

観光都市宣言

観光振興課・☎202165

市議会定例会において、『観光都市宣言』が、2月27日に決議されました。

都市宣言とは?— 都市の意思や方針、目標などを内外に表明するもので、本市では10番目の宣言になります。

どうして宣言したの?— ここ数年、鏝阿寺本堂の国宝指定や史跡足利学校の日本遺産認定、そして今年のJR新駅開業など、観光誘客の大きな流れが生まれています。この良い流れを契機に、私達のまちの魅力を再認識して、おもてなしの心を醸成し、より個性豊かな観光都市を市民全体で目指すために都市宣言をしました。

これからどうするの?— 魅力ある都市を市民の一人ひとりの力によりさらに磨き上げ、市民自らが地域を愛し、地域への誇りを持った暮らしをとおして、訪れた方々に「また来たい」「住んでみたい」と思われるまちづくりを進めます。

お知らせ

春の交通安全

市民総ぐるみ運動

市民生活課・☎202190

運動期間 4月6日(金)～15日(日)
運動の重点

▽子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止

▽自転車の安全利用の推進

▽全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着



用の徹底

▽飲酒運転の根絶

▽『子どもや高齢者に優しい3S運動』の推進

▽『夜間走行中の原則ハイビーム』の徹底

▽『夜間走行中の原則ハイビーム』の徹底

統一行動日

▽6日(金) Ⅱ子どもや高齢者に優しい3S運動推進強化の日

▽9日(月) Ⅱ歩行者・自転車交通事故防止強化の日

▽10日(火) Ⅱ交通事故死ゼロを目指す日、シートベルト・チャイルドシート着用強化の日

▽13日(金) Ⅱ飲酒運転根絶強化の日

▽13日(金) Ⅱ飲酒運転根絶強化の日

▽13日(金) Ⅱ飲酒運転根絶強化の日

▽13日(金) Ⅱ飲酒運転根絶強化の日

▽13日(金) Ⅱ飲酒運転根絶強化の日

▼交通安全教室 申込受付中

高齢者や幼児、小学生などを対象とした交通安全教室に専門の交通安全指導員を派遣します。

内容 交通安全講話、DVD上映、実践指導など、目的にあわせた講習

申込 事前に電話で同課

市の組織改正

行政管理課・☎2112

効率的で活力ある組織体制を整備するため、組織の名称変更や統合を行いました。

主な改正点

▼政策推進部↓総合政策部

市政の総合企画・調整機能を強化するため、組織の第一順

位とし、名称を変更

▼財産活用課内・公共施設担当

と市民会館等整備担当を統合

↓公共施設整備室・☎2271

公共施設等総合管理計画を推進するために統合強化

▼農林整備課内・土地改良担当

と林政担当を統合

↓農林・獣害対策担当

☎2163

獣害対策の強化と土地改良、林政業務の効率化を図るために統合

ご迷惑おかけします

SL運行に伴う排煙・汽笛

JR東日本高崎支社

☎027-320-7111

栃木デザインেশョンキャンペーンに併せ、両毛線でSLを運行します。排煙や汽笛などでご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

区間 両毛線小山駅～足利駅

日時 5月19日(土)／足利駅着午後1時10分ごろ

※4月5日(木)・25日(水)、5月9日

(水)にも試運転を予定しています。

※詳しくはお問い合わせください。

至誠 通天

市長コラム No.052



和泉 聡

捨てる

ピロキヤン

平昌オリンピックの男子フィギュアスケートで見事に連覇を

果たした羽生結弦選手については、

たくさんの報道がありました。

私が最も印象に残ったのは、

羽生選手がテレビのインタビュ

ーで「いろんなものを捨てて、こ

の金メダルのためだけに生きよ

うって思っていた」と話したこと

でした。「捨てることで」自分

の思いが洗練されて、どんどん

小さくなっていった、最終的に

きれいなかけらになった」と今

回の金メダルを表現しました。

記者時代、上司や先輩に言わ

れたのは、「10の取材をしたら、

9を捨てて1を書け」でした。10

の取材をすると、もったいなく

て、つい10全てを書きたくなる

のですが、その衝動をいかに抑

えるか。

「一度書いた自分の原稿を徹

底的に削れ」削ることではか文

章は上達しない」ともよく言われました。いったん書いてしまふと愛着が湧き、削るのは難しいのですが、思い切つて削れたとき、引き締まったいい原稿になっていました。

式典でも、司会者が余計なことを言わないとき、引き締まったいい式典になります。市民に説明するときも、10の準備をしたら本当に必要な1だけを話す、そのくらいでないと、市民には理解してもらえないと、幹部職員に話をしました。

結局物事を目標に近づける作業、よりよきものに仕上げる作業というのは、決して「付け足す」ことではなく、いかに余分なものを「捨てるか」「削るか」にあるのではないか。

「捨てなければ得られないものがある、とすごく感じた」と羽生選手は言いました。捨てる作業を繰り返して、最後には輝く結晶のような「かけら」にしていく。そんな大切なひとつの真理の側面を、羽生選手は教えてくれたのです。

4月から
ペットボトルは
ラベルをはがして
つぶさずに!



クリーン推進課
☎714192